

平成30年8月31日

健康危機管理課

今年、県内初となる風しん患者の発生について

平成30年8月30日(木)、有明保健所へ管内の医療機関から風しん疑いの届出があり、県で検査を行ったところ、風しんについて陽性であることが判明しました。

風しんは、今年の夏頃から首都圏を中心に届出数が増加しており、今後、県内においても感染が拡大する可能性がありますので、感染拡大防止のため、広く情報提供し注意喚起いたします。

1. 患者の概要

- ・30歳代 男性 会社員
 - ・国内旅行歴あり(8月11日～14日 愛知県)、予防接種歴不明
- ※当該旅行中に患者が感染したことを確認したものではありません。

2. 患者経過等

- 8月29日(水) 発熱
- 8月30日(木) 発疹出現
医療機関を受診
医療機関が有明保健所に風しんの発生届を提出
同日夜、県保健環境科学研究所の検査にて風しん陽性と判明
- 8月31日(金) 自宅療養中

3. 妊婦や妊娠を希望している方等へ

風しんに感受性のある妊娠20週頃までの妊婦が風しんに感染すると、出生児が難聴、白内障、心疾患など様々な先天障害を呈する先天性風しん症候群(CRS)を発症することがあります。

風しんの予防には予防接種が有効ですが、妊娠中の女性は予防接種が受けられないため、抗体を持たない又は抗体価の低い妊婦は、可能な限り人混みを避け、不要不急の外出を控えるようにしてください。

妊娠を希望している方は、母子健康手帳等で予防接種歴を確認し、特に予防接種を2回受けていない場合(風しんの罹患歴がある方は除く)は医師にご相談のうえ、抗体検査や予防接種の検討をしましょう。ただし、過去に風しんに罹患したことがある方や予防接種を受けたことがある方でも風しんにかかることがあります。

また、妊婦の周りの方(妊婦の夫、子ども、その他の同居家族等)は、風しんを発症しないよう予防に努めて下さい。

【お願い】

報道機関各位におかれましては、感染症法の精神に基づき、患者及び患者家族等について、本人等が特定されないことがないよう、各段のご配慮をお願いいたします。

(裏面あり)

4. 風しんについて

風しんは、風しんウイルスにより起こる急性の発疹性感染症です。飛沫によりヒトからヒトに感染し、潜伏期間は2～3週間です。

症状は、発熱、発疹、リンパ節の腫れなどで、発疹の出る数日前から発疹の出た数日後まで感染性があります。不顕性感染から重篤な合併症（脳炎、血小板減少性紫斑病）まで幅広い症状となります。

風しんには特別な治療法はなく、症状を抑える対症療法になり、予防のためには予防接種が最も有効な方法です。定期接種の対象者は、1歳児、小学校入学前1年間の幼児です。忘れないように予防接種しましょう。

5. 医療機関の皆様へ

発熱や発しんを呈する患者を診察した際には、風しん、麻しんにかかっている可能性を意識した診療をお願いします。

6. 県民の皆様へ

症状等から風しんが疑われる場合は、事前に医療機関に電話等で相談のうえ、マスクを着用して受診してください。

【参考】

① 国内の風しん発生状況（8月28日国立感染症研究所感染症疫学センター発表）

平成30年8月22日時点で今年の風しん患者報告数は184人となっており、千葉県（62人）、東京都（47人）、埼玉県（11人）、神奈川県（9人）が全体の70%を占めています。九州では、福岡県（9人）、宮崎県（2人）となっています。

② 県内の風しん発生状況

H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
7	0	0	2	5	65	0	0	1	2	1

※1：H25は、全国で14,344人の患者が報告されている。

※2：H30は、今回の事例。

③ 風しん抗体検査事業及び予防接種助成事業について

県では、妊娠を希望する方（同居者を含む）等に対して、委託医療機関において無料の抗体検査を実施しております。

また、県内の市町村（一部の市町村を除く）が行う予防接種に対する助成事業も実施しております。

健康危機管理課 感染症・新型インフルエンザ対策班

担当：山田（崇）、吉岡

096-333-2240（直通） （内線：7080、7085）